

1. チェーンソー始動前の点検（機器の外観編を参照しながら読んでください）

① チェーンソー各部に異常がないか

外観を確認して分かること

- イ) 外観全体を見て、オイル漏れ等異常な状態は見られないか
- ロ) エンジンカバー内やソーチェーンカバー下部に木くず等が残っていないか
- ハ) エンジン停止の状態、ソーチェーンが滑らかに回転するか
- ニ) ガイドバー先端のスプロケットはスムーズに回るか
- ホ) ガイドバーが曲がっていないか？ 溝幅は均一に保たれているか
- ヘ) ガイドバー溝外側に異常なバリ等がないか、あれば砥ぎ落す
- ト) エンジンブレーキのON/OFFは滑らかにできるか
- チ) ソーチェーンの目立てはされているか、歯の欠け落ちはないか

② ソーチェーンの取り付けができる

- イ) 現在取り付けのソーチェーンをスムーズに外すことができる
- ロ) チェーンガイドスプロケットに異常な欠け等がないか確認する
- ハ) スプロケット周りに木くず、泥等がないか、あれば拭き取る
- ニ) チェーンドラムに木くずや粉が溜まっていないか
- ホ) ソーチェーンの取り付け
ソーチェーンをガイドバーに沿ってスムーズに取り付け～、カバーを取り付ける～、固定ボルトを取り付ける～、が一連の作業として滑らかにできる。
更に、チェーンの張り具合を確認する

③ ソーチェーンの張り調整ができる

- イ) 前項のホ) から進め、張り具合が適正と判断できればボルトの増し締め、固定をする。
- ロ) ガイドバーの半分ぐらいのところのソーチェーンをつまみ上げ張り具合を確認する。手で軽く回転させることができる。

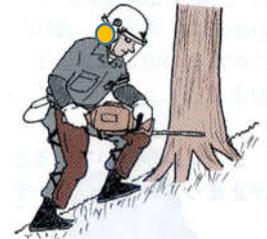
④ 燃料、オイルの給油ができる

- イ) 燃料缶のガス抜きキャップを緩める～（ガス抜きをする）
- ロ) 燃料缶のメインキャップを外し注ぎパイプを取り付ける
- ハ) チェーンソー側の燃料キャップを外し、燃料を注ぎ、90～95%程度まで入れる～キャップを締める～燃料缶のガス抜きキャップを締める～メインキャップを締める。（メインキャップ締めが先で、後ガス抜きキャップ締めもあるが、これをすると、ガス抜きキャップを締め忘れることが多いので返って危険。）
- ニ) オイル缶のキャップを外す～チェーンソー側のオイルキャップを外す～オイルをオイルタンクに注ぎ、90～95%程度まで入れる～オイルタンクのオイルキャップを締める～オイル缶のオイルキャップを締める。

2. チェーンソーの正しい始動ができる

(チェーンソー使用認定・講習要領書の手順フロー参照ください)

立った姿勢



3. 正しい作業姿勢

① 安全作業は安定姿勢から

イ) 正しい姿勢で作業すれば、安全な作業ができるばかりでなく、振動障害の予防にも役立ち、効率もあがる。チェーンソー作業は、足場をしっかりと確保し、身体のバランスのよい姿勢で行うこと。

ロ) 傾斜地では、足滑りに注意し、足場をしっかりと固める。

ハ) 立姿勢では、チェーンソーの前ハンドルを左手、後ハンドルを右手で持ち、左足をやや前方に出し、両足は肩幅程度に開く。

(左利きでもこの持ち方をする)

二) 鋸断位置が低い時は自然と中腰姿勢になるが身体の負担は大きい。

受け口切り、追い口切りでさらに鋸断位置が低い場合には、左足を立て膝に、右足を片膝つきに曲げて構える。

低い時の姿勢



中腰の姿勢

② チェーンソーはできるだけ身体の近くで使う

イ) 身体の近くで使うと姿勢も安定する。

右腕のひじを右脇腹につけ、左腕をわずかに曲げるように持つと、チェーンソーが身体の近くで操作できる。

ロ) 受け口切り、追い口切りの時は、左腕の肘を膝か、腿に付けると腕の負担も小さくなり安定する。両肘を体から離すと背中や腕の負担が大きくなり、ハンドルを強く握るようになる。振動障害予防上からも好ましくない。

ひじを膝か
腿に預ける

③ ハンドルは、正しく握ること

イ) 左手は、キックバックに備えて、必ず親指を下に回して、前ハンドルを握ります。

右手は、スロットルロックを押しつつ、後ハンドルを握り、人差し指でスロットルレバーを操作する。

手首をまっすぐにして持つことは、腕が疲れず、振動障害の予防にも好ましい。

ロ) 水平切りのときは、左手は前ハンドルの側方部を持つ。バーの上側で水平切りをする場合には、右手の親指でスロットルレバーを操作すると楽な場合もある。

ハ) 受け口の斜め切りの時、 30° から 45° の斜角度に切る時などは、左手を前ハンドルの曲がりの中間部を持つなど、つまり、チェーンソーの荷重を自然に真下に受ける形にすると、最も自然で腕にかかる負担も楽な保持姿勢となる。

4. 安全に玉切りができる

- ① 作業時の姿勢～身体位置、重心位置は適切か
 - イ) 対象の丸太材の配置場所
 - 山の斜面～斜面に直角
 - ～斜面に水平
 - ～斜面に斜め
 - 平地置き～
 - ロ) 丸太材の太さ
 - ハ) 材の用途、必要寸法
 - ニ) 皮むきが必要か、否か
 - ホ) 枝の出具合、地面への突き刺さり等
- ② 玉切りの危険予知ができる～転がり防止、周囲への影響
 - イ) 前項イ)～ホ)の玉切り材の配置場所、状況により大きく変わる
 - ロ) 重心位置、枝の地上接地状況、転がり防止、跳ね上げ、周囲への影響等
- ③ ソーチェーンを挟まれないよう使用できる（クサビの使用）
 - イ) 対象木の横倒し状況を見て、切断部位の位置にどのような張力が働いているかが即座に判断できる。
 - ロ) 対象木に枝が多くあり、その枝の地面への接地状況により、どのような張力が切断部位に働くかが判断できる。
 - ハ) 対象木が大きい場合には、特に切断箇所（前後の位置、枝張り状況から見た位置、等）により、どのような張力、重力バランスが働いているか判断できる。
- ④ 材の切断面が材と直角に、正確に切断することができる。
 - イ) 材の曲がり具合や、節の位置等により、切断方法が変わるが、基本は直角に正確に面を垂直に落とす。
 - ロ) 材が太く、切断面に重力がかかっている時は、裏面に予め迎え切りを入れる。
 - ハ) 枝落としの場合には、材の軸面に傷をつけないよう切断する。

5. 危険予知の知識と対応

- ① チェーンソー使用時の危険予知ができ、対策ができる。
 - イ) チェーンソーの使用場所により危険予知判断が違う（玉切り作業の場合でも）
周囲に一定の空間⇒材の太さ、長さ、切断箇所、枝の有無⇒身体の置き位置、足場確保、身体の重心位置、⇒切断材の切り落とし後の転がり具合⇒転がり防止、クサビ使用等

② キックバックの危険

- イ) チェーンソーのどの位置で起こるかを知っている
- ロ) ソーチェーンの切れ味が悪い時には起きやすい
- ハ) 肩よりも上でチェーンソーを使ってはいけない。しかし、胸前で使っても非常に危険、キックバックは思わず、予期せず起きる
- ニ) 突っ込み切りをしようとするときは特に危険

③ その他の危険

その場ですぐに起きる、障害が発生、知見できるものではないが、時間が経過するとともに身体に異常が起きだす非常に怖い病気（発症するとほとんど治らない）

- イ) 振動障害
- ロ) 騒音障害

<対策>

- イ) チェーンソーの連続使用時間は1回起動して、10分以内で休む
- ロ) 同上 一日の総使用時間は2時間以内とする。
- ハ) できるだけ振動防止専用手袋を使う
- ニ) できるだけ専用ヘルメットでイヤーカーバー（耳栓付）を使用する
- ホ) チェーンソーの手入れを充分に行い、特にソーチェーンの切れ味の悪い状態では使わない。こまめに目立てをする。（手に力を入れなくても切れる状態を保つことが重要）

6. 使用後の手入れができる

① 使用後の清掃、点検（作業の手順①～⑦も効率良く行う）

- イ) ソーチェーンの目立てをする（①）⇒ガイドバー溝掃除（②）⇒ガイドバー sprocketの回転が悪い時はグリース注入（③）
- ロ) ソーチェーンを外して清掃する（④）
チェーンカバーを外し（⑤）⇒各部の木くず除去（⑥）（sprocket・チェーンドラム・下部・隙間等）⇒エアフィルター（⑦）等

② 1か月以上使わない場合

- イ) 燃料タンクからガソリンを抜く⇒エンジンが止まるまでアイドリングをする。
⇒キャブレターお中のガソリンまで無くす。

7. ソーチェーンの目立てができる

① 使用ヤスリの口径、目立て角度が適切であるか

- イ) 横歯、縦歯を均一に目立てしているか

② ガイドデプスは適切であるか

以上